

# 研究報告書

沖縄県立豊見城南高等学校

## I 研究主題

学年の特性を生かし3ヵ年を見通した「総合的な学習の時間」の研究  
ープロジェクト南・自分探しの旅の実践、魅力ある学校をめざしてー

## II 研究主題設定の理由

①「総合的な学習の時間」を本格的に実施する前に、インターンシップ・進路講話等の先行的実践事例があること、②本校の生徒の実態に即した進路指導の実施と進路決定率を高めるため、③魅力ある学校づくりをめざして、の3点を主題設定の主な理由とする。

そこで、本校における「総合的な学習の時間」及び魅力ある学校づくりのこれまでの取り組みを「プロジェクト南」、3ヵ年を見通した生徒の自己実現を目指した一連の活動の全体テーマを「自分探しの旅」と称し、全職員・生徒が一丸となり取り組むことを意図するとともに、更なる教育効果を高めることを目的として、本主題を設定した。

## III 研究の内容

### 1. 「プロジェクト南」のねらい

学習指導要領の「総合的な学習の時間」のねらいと、本校の取り組み内容、および生徒の実態から「プロジェクト南」のねらいを以下の3点とする。

「プロジェクト南」のねらい

- (1) 生徒各自が、自分を取りまく人や地域等を知ることにより、自己の生き方について自覚し、目標をもって進路を決定し自己実現を目指すことができるようにすること。
- (2) 自己の課題を見つけ、各自が生きていくうえで必要な学ぶ力や、ものの考え方を身につけること。
- (3) 問題解決のための探求活動に主体的・創造的に取り組むことができるようにすること。

### 2. 「プロジェクト南」の研究組織および指導体制

- (1) 「プロジェクト南」の活動および指導計画は、「プロジェクト南研究推進委員会」および各学年会で企画・立案し、総合的な学習委員会を経て、職員会議に提案、全職員の承認をうけ決定する。
- (2) 各学年の活動の詳細は、各学年主任を中心に各学年会で話し合い決定する。
- (3) 「プロジェクト南」の活動の指導・助言は、全職員で行うことを基本とする。
- (4) HR 教室で行われる HR を主体とした活動には、担任が指導・助言を行うが、副担任も同席し、チーム・ティーチング (TT) で実践する。
- (5) 対外的な仕事や、学年全体をグループ分けして行う活動等、全体で動く活動では、副担任が主となり、必要に応じ学年主任、担当の協力を得て指導・助言を行う。
- (6) 外部関係機関との連携及び人材を活用する。

3. 平成15年度「プロジェクト南」年間指導計画  
→ (別ファイル エクセルのファイルで作成)

## IV 研究実践の記録

### 1. 全学年共通の実践事例

#### (1) 「プロジェクト南」ガイダンス

平成15年度の活動のスタートにあたり活動の流れを確認するために行った。

#### (2) 「プロジェクト南」全体発表会

1年間のまとめとして、クラスや学年から選出された代表が発表を行った。

#### (3) 特別講演会「共に生きるためにーアフガニスタン復興を通して考える」

#### (4) その他の実践事例（教育実習生との進学懇談会、ワックス塗り）

### 2. 各学年の実践事例

#### (1) 1学年 テーマ 「自分を取りまく地域と環境」

ねらい ①自分の住んでいる地域や環境について調査・研究することにより地域社会を理解し、郷土を愛する心を育てる。

②生徒各自の興味関心に応じた沖縄県全体の環境や歴史・文化・職場を調査・インタビューすることにより、将来の自己の姿や進路実現を模索させる。

《課題1の学習の取り組み》自分を取りまく地域や周辺の環境についての学習

《課題2の学習の取り組み》沖縄全体の環境調査や歴史・文化についての学習(野外学習)

#### (2) 2学年 テーマ 「インターンシップ」

ねらい ①就業体験を通して、社会の仕組みを知り、自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決するなど「生きる力」を養成する。

②地域社会の教育力を活用し、社会生活や職業生活に必要な基本的能力及び望ましい勤労観・職業観を養う。

③自己の生き方や進路について考え今後の学習活動に生かせるようにする。

#### (3) 3学年 テーマ 「望ましい職業観」

ねらい ①自己の進路を考察する時間を通して、生き方についての自覚を深め、自己発見のヒントとするとともに、問題解決能力や学び方、ものの考え方を育成する。

②生徒自らが主体となり、講演会を企画・運営することにより、自ら考え主体的、創造的に取り組む態度を育成し、生きる力を養う。

③各自の興味・関心に応じた様々な職業で活躍する先輩の講演を聴くことにより、自己の生き方についての自覚と就職意識を高め、職業選択能力を高める。

### 3. 進路部の実践事例

進路部主催の実践事例として、①進路希望調査（全学年対象）、②興味診断テスト（1学年対象）、③適性検査（2学年対象）、④進路ガイダンス（3学年対象）を実施した。

### 4. 「プロジェクト南」のまとめと次年度に向けての実践事例

今年度のまとめとして12月に、全生徒に「自己評価アンケート」を、全職員に「評価と反省のアンケート」を実施し、その結果を考察し、次年度の活動計画の参考にした。

## V 研究の成果と課題

### 1. 各学年の取り組みにおける成果と課題

#### (1) 1 学年

成果 ①自分の住んでいる地域や沖縄県全体に愛着や関心を高めることができた。

②課題を見つけて学習し、その成果を全体の前で発表することが出来た。

③複数の教科と連携を取って意欲的に学習させる事が出来た。

課題 ①職員主導から生徒の主体的な活動にもっていく工夫が必要である。

②HR 担任の負担過重にならないような職員の体制を考えたい。

#### (2) 2 学年

成果 ①将来の進路や職業選択に役立った。

②職場実習することにより敬語や言葉遣いの大切さに生徒が自ら気づいた。

③色々な仕事の内容や職業人としての仕事に対する姿勢を学ぶことができた。

課題 ①100箇所以上の職場に「インターンシップ受け入れ」の依頼をし、それぞれの職場の状況に応じて調整し、詰めていくことになるのだが、係の先生は授業をしながら対応するので大変である。

②インターンシップをまとめどりをする場合、他学年との時数調整や振り替え授業の調整、まとめ取りの時期、形態等、未解決の課題がある。

#### (3) 3 学年

成果 ①社会で活躍するための方法や厳しさを直接聞くことができた。

②講師を通して、将来の進路を自分に置き換えて考えることができた。

③感動を覚えながら進んで講話に参加できた。

④講師を迎えることの意味・準備・手順・マナーをよく理解し、実行委員を中心に活動できた。 ⑤やる気もらった。

課題 ①準備・話し合いの時間や場の確保、 ②活動内容の拡大と深化

### 2. 学校全体の取り組みにおける成果

①3ヵ年を見通した形での進路指導の道筋を具体化することができた。

②生徒・職員ともに意識が高まり、協力し活発な活動を行うことができた。

③3ヵ年を見通した進路学習の充実を全職員の理解と協力で推進することができた。

④担任と副担任が協力しあう新たな指導体制が、機能しつつある。

⑤発表会や体験活動等、生徒が活躍する場面を数多く設定し、取り組むことができた。

⑥各教科・各部の協力のもとに取り組む体制ができつつある。

### 3. 全体を通しての反省と課題

①生徒の自主性・主体性を育てる活動を組み入れること

②研究指導体制づくりのための話し合いの場の不足や、職員に多少負担感があること

③研究指定校でなくてもできる指導体制・実践内容をつくること

④実施時間の課題（まとめ取りにより学年間に不揃いが生じたこと等）

⑤進路部との協力体制づくり

⑦地域社会との連携(自治体、企業等との連携強化、人材バンクの充実や連絡会等の設置)

⑧「プロジェクト南」の実施上の問題（学校外部との調整の窓口をどこに置くか）